

基本データ

日時：2020/2/15 10:00-13:00

場所：兵庫県立大学 姫路工学キャンパス

運営体制：

職員2名 | 学生委員40名

目的/概要

新入生や保護者が感じる大学生活の不安を先輩学生から直接解消し、これからはじまる新生活を楽しみに感じてもらう。

コンテンツ

- ・進路インタビュー
- ・学部別の時間
- ・大学生協について
- ・食堂体験&相談ブース

00 6月から職員と 新学期ミーティングを実施

職員さんと綿密な連携◎

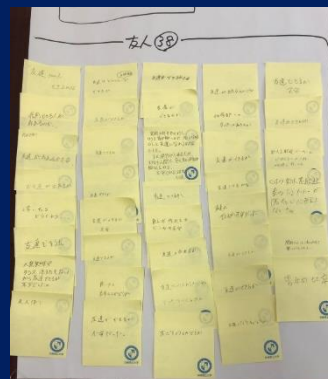
兵庫県立大学生協では6月から2週に1度のペースで、定期的に新学期ミーティングをおこなっています。この新学期ミーティングには学生委員の新学期担当と職員さんが参加し、主に入学準備ガイダンスと新歓パーティについて話し合っています。学生は学生生活を送っている実感を伝え、それをもとに職員さんが経験から案を提示するなど、それぞれの立場から意見を伝えることができています。

新入生・在学生の実態を調査

学生委員会に入部した1回生に向けて、「入学前や1回生の春に不安に感じていたこと」を調査しました。また、在学生には通学時間などの大学生活における実態を調査しました。このような新入生や組合員の情報を調査しておくことで、新入生や組合員が知りたい時に必要な情報を提供することができたり、よりニーズに沿った活動になります。実際に兵庫県立大学生協での入学準備ガイダンスでは、調査から多く出た不安に感じていたことをもとに説明会を作り、このようなデータを数値とともに説明したり、アンケート結果の資料を配布しました。



このように新入生が持っている不安を聞き出し、分類わけして調査しました！



01 卒業を控えた4回生への 進路インタビュー

大学生活4年間を見据えられた

兵庫県立大学を卒業する学生委員の4回生を各学部ごとに迎えて進路インタビューをおこないました。進路を決めたきっかけやそれを目指すにあたってどんなことに取り組んだのかを伝え、新入生が新生活をイメージできるようになっていました。また、進路の情報を得る方法として、大学のキャリアセンターを紹介し、新入生は大学がサポートしてくれる安心感を感じることができたと思います。



「1回生のうちからやっておくことは？」という質問があり、新入生はこれから頑張ることをイメージできたと思います。

02 学部別の先輩学生からのお話

新生生の不安を先輩学生から直接解消したい！

この時間では、参加者と学生スタッフが学部ごとに分かれてその学部ならではのリアルな学生生活を、県大生の実際の調査を交えながら行いました。県大生の特徴や学部の特色、主な進路、時間割や履修についてなど、新生活をスタートする上で必要なことを実際のデータから伝え、さらに発表者の実際の経験を交えて伝えることができていたため、新生活がイメージしやすくなっていました。



このタイミングで同じ学部の先輩がわかると、相談ブースでも新生生は先輩に話しかけやすいですね◎

03 大学生協について職員さんからのお話

大学生活は大学生協に任せて！

大学生協についての話では、職員さんから大学生活に必要なモノの提案が県大生の実体験を交えてされていました。普段から学生と接して、学生を身近に見ているからこそ伝えられる内容で、新生生は大学生協が身近に感じられたと思います。全体を通して大学生協が学生に寄り添っていることを伝えることができており、新生生も保護者も安心してもらえる説明でした。



県大生の4年間のカレンダーから大学生協が大学生活に欠かせないことを伝えました◎

04 先輩学生と話せる相談ブース

1対1で話せる機会を大切に◎

先輩学生と新生生が対面で関われる機会を大切にしたいという想いから、毎年ガイダンス後は相談ブースを設けています。今年は保護者を含めて自分の学部・学科で学生が実際にどんなことを学んでいるのかを知ってもらうために教科書の展示や実験レポート・授業での制作物などを展示しました。今から始まる新生活にワクワクを感じられ、参加者からも大変好評でした！



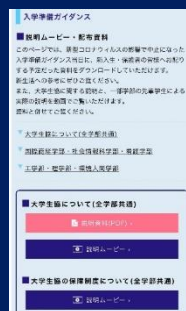
このように一人一人の新生生・保護者に対応し、不安を解消しています。

00 年間を通して新学期を考えられている◎

より新生生のニーズにあった取り組みに！

兵庫県立大学生協は新学期ミーティングなどを通して、年間を通して、定期的に新学期について考え、組合員の動きに目を向ける機会を作ってきました。そこから得たデータなどを次の新学期に活かすことで、より新生生のニーズにあった取り組みができていたと思います！

何のために新学期活動をおこなうのかという想いを大切に、年間を通して新学期を考えることができていました◎



今年は不測の事態で、第二回以降のガイダンスの中止などもありましたが、定期的な話し合いから新学期への想いははっきりしていたため、すぐにWebでの対応などに移すことができました！



関西北陸ブロック
学生事務局
[大内 梨央]